

# Chœur Rechant



## クール・ルシヤン 第5回 演奏会

2003年6月22日（日）

江戸川区総合区民ホール（大ホール）

## Greeting

願い

大場 点

本日はお忙しい中、私共の演奏会にお越しいただきありがとうございます。基礎を学ぶ意味でのルネッサンス作品、そして合唱の可能性拡大を目指した編曲作品を定番とし、聴衆の方々に少しでも合唱音楽の楽しさが伝わればと思いつつ、この5年間を続けてまいりました。

その間、時代は20世紀から21世紀へと移り変わり、相変わらず世界のどこかで血が流されています。昨年9月には、その前年のテロの犠牲者に対する追悼行事が世界各地で催され、いくつものレクイエムが演奏されていました。平和への祈りを込めて。しかし、そのわずか半年後に再び戦争の勃発。時代の流れの中で音楽はまったくの無力なのかもしれません。ただ、音楽が人の心の中の憎しみ合う部分を少しでも緩和できるならば、それを祈って歌い続けていきたい、そう願うのみです。本日は、そうした思いを込めてフォーレのレクイエムを中心としたプログラムを組んでみました。その中で、この気持ちが少しでも多くの方々と共有できれば、と祈ります。

## Profile

オルガン 能登伊津子

桐朋学園大学音楽学部ピアノ科卒業。グレゴリオ音楽院オルガン本科卒業、同専攻科卒業。オルガンを鈴木雅明、岩崎真実子の各氏に師事。通奏低音を故川西龍二氏に、アルバ・ドッピアを西山まりえ氏に師事。1994年白川イタリアオルガン音楽アカデミーに於てピストイア賞受賞。翌年イタリアピストイアオルガン音楽アカデミーに招待される。同アカデミーに於てL.F.タリアヴィーニ、J.L.G.ウリオールの各氏に師事。1998年スペイン政府より奨学金を得てタローカ国際古楽セミナーに参加。コジマ録音よりCD「メディオ・レジストロ」をリリース。現在オルガン奏者として、ソロ、室内楽等各地で活躍中。「メディオ・レジストロ」「アンサンブルBWV2001」メンバー。

ヴォイス・トレーナー 錦織まりあ（メゾソプラノ）

1996年愛知県芸術大学音楽学部声楽学科首席卒業、桑原賞受賞。同校主催卒業演奏会、読売新人演奏会出演。在学中よりオペラや宗教曲等の演奏会に数多く出演する。卒業後はドイツのナンブルグ教会、ワルシャワTVラジオホール及びオペラ座、ウィーンのシューベルト教会など海外に於いても宗教曲、ドイツリート等数多く出演し、好評を得る。また、森明彦氏のもとでフスラーの理論に基づいた発声法を学び、現在では多数の声楽家や合唱団のヴォイス・トレーナーとしても活躍中。

## Menu

I Josquin Desprez (c.1440-1521) ジョスカン・デプレ  
Stabat mater dolorosa 悲しみの聖母

II Olivier Messiaen (1908-1992) メシアン  
O sacrum convivium (1937) おお神聖な宴よ  
Cinq Rechants II (1948) 5つのルシヤンよりII

III Erik Satie (1866-1925) サティ  
Vieux sequins et vieilles cuirasses (1913) 古い金貨と古い甲冑  
1) Chez le marchand d'or 黄金を商う商人の家で  
2) Danse cuirassée 甲冑の踊り  
3) La défaite des Cimbres キムブリ族の敗退

詩および合唱編曲：大場 点

## Intermission

IV Jean Philippe Rameau (1683-1764) ラモー

Pièces de Clavecin クラヴサン曲集より  
Prélude プレリュード  
Allemande アルマンド  
Les Sauvages 未開人たち  
Gigue ジーグ

オルガン 能登伊津子

V Gabriel Urbain Fauré (1845-1924) フォーレ

Requiem (1893 version edited by J.Rutter) レクイエム  
1. Introitus et Kyrie 入祭唱とキリエ  
2. Offertorium 奉獻唱  
3. Sanctus 聖なるかな  
4. Pie Jesu 慈悲深きイエス  
5. Agnus Dei 神の子羊  
6. Libera me 我を救いたまえ  
7. In Paradisum 楽園にて

ソプラノ 堀野直美

バリトン 大場 点

オルガン 能登伊津子

オルガン・アシスタント 井上加奈子

## Note 1

### フランス音楽の眺望

フランスの音楽は主にその地理的な条件によって、イタリア音楽の明快で外交的な面とドイツ音楽の知的で内面的な面の両方の影響を受け、独自のスタイルでありかつ両者を摂取し融合した面を備えている。その歴史は、中世初期のグレゴリオ聖歌育成の時期に始まり、今日に至るまでの十数世紀にわたってたどることができる。

その中でも、黄金時代と呼ぶべき輝かしい発展を遂げた時期があった。第1期はルネサンス時代、ジョスカン・デブレに代表されるフランドル楽派の多くの作曲家たちが、ポリフォニー技法を大きく発展させ多くの宗教作品や世俗曲を世に送り出した。かれらの活動は全ヨーロッパに渡ったが、特にフランス人の積極的な関与があったことも事実である。

第2期は17～18世紀のいわゆるバロック時代、ルイ王朝の強大な権威の下で宮廷音楽という形で展開する。それはイタリアで発展したオペラや器楽の影響を多分に受けて発展した。中でもクラヴサンによるフランス独自の鍵盤楽器音楽が創造され、ラモーやクーペランによって頂点を極めた。その後の約1世紀、フランス音楽は衰退期を迎えるが、19世紀後半から第3の黄金時代を迎える。まず、サン＝サーンスらによって伝統的形式に基づく器楽の創作がさかんになり、続くフォーレらがフランス的形式の整備をしつつ、続く世代の育成へと力を注いだ。その中のラヴェルやドビュッシーらがフランス印象主義音楽の絶頂を築いた。

19世紀を支配していたドイツ・ロマン派の音楽を否定あるいは克服して、新しい音楽世界を創造したフランス音楽は、第1次大戦を境として多様かつ個性的な現代音楽へと結びついていった。サティを師と仰ぐ当時の若い作曲家たちは、ロマン派・印象派の批判から対位法への復帰・単純化へと進み、「若きフランス」の中核であったメシアンは、独自の音楽語法によって20世紀音楽の第一人者としての地位を固めた。このような多様性は収束することなく、第2次大戦以降今日にいたるまで続いている。

## I 悲しみの聖母

### ジョスカン・デブレ

ジョスカン・デブレはルネサンス時代の最高峰に位置する作曲家であると言われている。彼の功績でもっとも重要なものは、それまでの定旋律手法（ひとつの声部の固定旋律＝定旋律を多声部が装飾する）を、通模倣様式（先行声部の旋律を他声部が模倣しながら展開する）という新しい方向へ導いたことにある。「悲しみの聖母」は、1519年にヴェネツィアにて出版された曲集に含まれている5声のモテトゥスである。中間声部に作曲家バンショワのシャンソンの旋律を定旋律として用いながら、ホモフォニック手法と前述の通模倣様式とを絶妙に組み合わせた、非常に完成度の高い作品となっている。

## Note 2

### II おお聖なる宴よ／5つのルシャン～II

#### メシアン

4声のモテット「おお聖なる宴よ」を含むメシアンの1940年代前半までの初期作品のほとんどは、その創作衝動の源をカトリック信仰に置いていたが、1945年から48年にかけての3作品→トッラガリーラ交響曲、ハラウイ、5つのルシャン→から大きく変化する。その根幹となっているのは「愛」である。彼の言葉を借りるならば、それは「宿命的な、抗しがたい、全てを超越し、それ以外の全てを削除する愛」を示している。タイトルの「ルシャン」とは返し歌を意味し、ルシャンとそれに対応するクブレという部分が交互に繰り返す構成をとっている。

### III 古い金貨と古い甲冑

#### サティ

同時代の多くの作曲家に少なからぬ影響を与え、その反骨精神と尋常さを欠いた言行の故にしばしば誤解され続けてきたサティ。一切の虚飾を取り除き、極めて純粋で透明な音楽を書いたと評されるが、今日でも十分に評価されつくされたかどうかは疑問である。「古い金貨と古い甲冑」は1913年8月9日から9月17日にかけて作曲された、3曲からなるピアノ作品である。この時期の彼の曲に共通することだが、楽譜の冒頭や途中で作曲家自身による散文的な詩や指示が書き加えられており、旋律にはフランスの童謡などの引用がなされている。

今回の編曲では、彼が書き加えた詩および指示に基づいて、日本語の歌詞を創作して当てはめ、ほぼ原曲に忠実な合唱への展開を図った。

### IV クラヴサン曲集より

#### ラモー

フランス語でチェンバロをクラヴサンという。ラモーの作品には数多くのオペラやクラヴサン曲集がある。彼はオルガニストでもあり、また理論書を出版する等、近代和声理論の確立にも重要な位置を占めている。クラヴサン曲集の中で彼は「この楽器による完璧な演奏を習得する為」正しい椅子の座り方から始まり、運指法や装飾の仕方、難しい箇所を楽に弾く方法など様々な演奏法に言及している。しかも単なる教本としてだけでなく、「例え才能に恵まれなくとも、努力によって人に喜びを与え得る完璧さに到達出来る」など、全ての学ぼうとする人に対して温かい目を向けているのだ。ラモーはこの21世紀の現代においても、ページを開く度何度でも蘇り、私達に当時の演奏習慣と、また活き活きとした演奏とは何であるか、教えてくれるのである。本日演奏される4曲は異なる曲集からの抜粋であるが、ポジティヴオルガンに相応しいと思われる曲を組み合わせ、一部移調、アレンジをした（ラモーによると、しても構わないとのこと！）。

能登伊津子 記

## Note 3

### V レクイエム

#### フォーレ

1885年、父の死をきっかけにフォーレはレクイエムの構想を練り、87年から88年にかけて作曲、その後2回の改訂を経て1900年に現行版が初演されている。レクイエムとは、そもそもカトリックの典礼書「死者のためのミサ」のテキストに基づいた、いわゆる鎮魂曲であり、フォーレ以外にもモーツァルトなど多くの作曲家が作曲している。フォーレのレクイエムの特徴としては、一般にドラマチックで激しい音楽がつけられる「怒りの日」が省かれており、代わりに「我を救いたまえ」と「楽園にて」が加えられ、全体として抒情的で洗練された印象を与えてくれる点であると言える。今回は、イギリスの作曲家ラッター編によるオルガン伴奏版を使用した。オリジナルと推定される1893年版の復刻を目指したもので、合唱パートにも歌詞割付変更など改訂がなされている。

## Member

ソプラノ	相葉 昌枝 佐藤 純子 堀野 直美	青山 裕子 鷹野 恵 森 治子	井桁 由美子 豊崎 光子 渡辺 亜紀子	加瀬 典子 福田 浩子
アルト	稲葉 由美子 佐々木 睦	鶴沢 美紗子 田中 和子	大樋 彩子 堀内みずき	草場 澄江 増田 佐智子
テノール	井桁 嘉一 木内 博和	井手 一彦 草場 康裕	稲葉 靖	大槻 幸雄
バス	相葉 正宏 瀬戸口 満	天沼 透 増田 正樹	大樋 亨	佐藤 正史
指揮	大場 点			

## Staff

舞台監督 山口 珠江 助手 森川 文香

## Information

クール・ルシャンでは団員を募集中です！

- ◇ 練習場所：市川市文化会館練習室 または 市川公民館
- ◇ 練習日時：第2・4土曜日 午後6時30分～9時30分
- ◇ 詳しくはHPで！ <http://members.tripod.co.jp/obatomor/>